

平成31年度 最終自己評価

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	成果・課題・改善策
<p>1 学びがあり進路実現できる学校</p> <p>①習熟度別授業、AL型授業を充実し、授業力を向上する。</p> <p>②生徒が主体的、能動的に学ぶ姿勢を育成する。</p> <p>③3年間を見通した組織的な教科指導と進路指導の実践を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 習熟度別授業 * 個別添削指導 * AL型授業のための研修会 	<p>授業力向上のためにタブレットを有効に活用しようとする教員の割合が</p> <p>A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p>	<p>95% A</p>	<p>成果：ICT機器の利活用した授業実践や、タブレット活用研究事業での授業研究を通じて、優れた授業実践や理論に触れ、授業力を向上しようとする教員が中間評価時よりも更に増加した。</p> <p>課題：ICT機器を利活用した授業実施数に教員間で差があること。</p> <p>改善策：校内で先進的な取組を行っている授業実践や効果的な授業実践の例をこれまで以上に紹介したり、研修等での成果を発表する機会を設定する。 教務</p>
	<ul style="list-style-type: none"> * 習熟度別学習課題 * 学習時間調査 * 個別面談 	<p>自ら学習課題に取り組み、主体的・発展的に学習する習慣が身についたと考える生徒の割合が</p> <p>A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p>	<p>73% B (総合学科) 68% (普通科) 78%</p>	<p>成果：各授業から出される課題の見直しや課題に取り組む際の心構え、進路実現に向けての学習意欲の啓発などの指導が効果を上げた。</p> <p>課題：総合学科の割合が70%に達していないことと、1・2年生普通科の数値で70%に達していないクラスがあり、3年生普通科と比較して数値がやや低いこと。</p> <p>改善策：学習時間調査の結果等を有効に活用し、学習意欲を喚起する取組を継続して行っていく。 教務</p>
	<ul style="list-style-type: none"> * 3年間を見通した指導計画の作成とPDCA実践 * 習熟度別指導の記録 * 個別面談 * 進路自主学习 	<p>3年間を見通した授業等の改善ができたと思う教員の割合が</p> <p>A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p>	<p>66% D</p>	<p>成果：3年間を見通した授業等の改善ができていると答えた教員が中間評価では80%であったが、最終評価では66%と減少した。</p> <p>課題：授業等の改善が「ある程度できている」が67%→56%、「できている」が13%→10%とそれぞれ減少した。教員が年間を通して授業改善の意識を高めていくことが課題である。</p> <p>改善策：習熟度別指導の記録が教科指導で活用しきれていない。習熟度別指導の記録に代わる新たな指導計画を作成していく必要がある。 進路指導</p>

平成31年度 最終自己評価

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	成果・課題・改善策
<p>2 人間力を向上できる学校</p> <p>①学校行事を通し、仲間を大切にし、他者を思いやる心を育成する。</p>	<p>* チャレンジウォーク * 文化祭 * 体育祭 * 球技大会</p>	<p>学校行事への取組を通して他者を思いやるが多くなったと考える生徒の割合が</p> <p>A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p>	<p>92% A</p>	<p>成果：いろいろな学校行事を通して、積極的に参加することで、クラスの団結力が高まり、他者を思いやることのできる生徒が多くなった。思いやるが多くなったと考える生徒の割合が特に低かった1年総合学科だが、体育祭や「ふるさと輪島探究」ポスターセッション後の今回は15%上昇した。</p> <p>課題：学年ごとにみるとどの学年でも総合学科が、学年で比較してみると1年生が「あまり多くならなかった」「多くなかった」という回答している生徒が多い。</p> <p>改善策：様々な行事を通し、積極的に生徒が活躍できる場を設け、生徒の参加を促していく。</p> <p style="text-align: right;">生徒会</p>
<p>②課外活動を通し、主体的、能動的に行動できる生徒を育成する。</p>	<p>* 部活動 * ボランティア活動</p>	<p>部活動などの課外活動に積極的に取り組むことのできる生徒の割合が</p> <p>A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p>	<p>82% B</p>	<p>成果：「できた」「ある程度できた」と考える生徒の割合が82%と、肯定的な回答が多数を占める結果となった。</p> <p>課題：1年総合学科以外のクラスはすべて75%を超えていたが、1年総合学科のは47%と極端に低かった。</p> <p>改善策：「できなかった」「あまりできなかった」と考える生徒が能動的に活動できる場面設定を顧問の先生や担当の先生方とともに工夫していく。また、部活動を辞めた生徒たちに対し、新たな活動へ向けて支援を行っていく。</p> <p style="text-align: right;">生徒会</p>
<p>③両科生徒が協働した事業を実施し、他者と切磋琢磨することにより自己研鑽できる生徒を育成する。</p>	<p>* 全校挨拶運動 * 登校指導</p>	<p>挨拶や身だしなみなど、TPOに応じた適切な振る舞いができるようになったと考える生徒の割合が</p> <p>A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p>	<p>94% A</p>	<p>成果：PTAや河井小学校と連携した登校時の挨拶運動を実施し、部活動の生徒や生徒会の役員を中心に積極的に取り組む様子が見られた。</p> <p>課題：登校時の挨拶運動から、来校者への挨拶励行や日頃の身だしなみにも注意し、規律ある授業や学校生活へと繋げていくこと。毎朝のクラスでの挨拶練習が形骸化されつつある。登校時の生徒からの挨拶も全員からではなく、挨拶せずに通り過ぎていく者もいる。</p> <p>改善策：生徒会執行部や各クラス役員、部活動等とも連携し、TPOについて生徒が主体的に考え分析し、より良い学校づくりについて模索する。</p> <p style="text-align: right;">生徒指導</p>

平成31年度 最終自己評価

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	成果・課題・改善策
<p>3 地域と共に成長できる学校</p> <p>①小中学校等との協働研究事業を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 地域連携の協議会 * 授業公開と授業参観 * 研究授業と研究協議会 	<p>協議会、授業参観、研究授業等に参加し、地域の教育力の向上に貢献できたと考える教員の割合が</p> <p>A 70%以上 B 50%以上 C 30%以上 D 30%未満</p>	<p>43% C</p>	<p>成果：本校の教員が市内の小中学校の授業を参観したことにより、授業の状況や児童、生徒の状況について理解を深めた。</p> <p>課題：地域の教育力の向上に貢献できたと考える教員の割合を増やすこと。</p> <p>改善策：小中学校の学校公開の期間や研究授業等の際に、短時間でも積極的に参観するようにする。</p> <p style="text-align: right;">総務</p>
<p>②小中学校との生徒間交流事業を拡充する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 挨拶指導 * 中高学習交流 * キャリア教育講演会 * 体験入学 	<p>小中高を超えた生徒間交流事業を通して、達成感や満足感を感じている生徒・児童の割合が</p> <p>A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p>	<p>81% B</p>	<p>成果：中学生との学習交流会や中学校でのキャリア教育講演会、挨拶指導に参加した生徒は、地元の生徒に「教える」という体験を通して地域貢献意識を高め、達成感を得た。また、体験入学では、生徒の中学生への接し方が良く、好印象を与えた。</p> <p>課題：小中学校からの要望も加味し、生徒が意欲的に参加し、達成感や満足感をより感じられるように内容の充実を図ること。</p> <p>改善策：小中学校との連絡調整や情報交換を行って、継続事業や新規事業の内容について検討する。</p> <p style="text-align: right;">総務</p>
<p>③実践的・探究的地域学習を充実し、地域貢献意識の向上を図り、地域と連携したグローバル人材を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 地域調べ学習と成果発表 * 朝市出店販売実習 * 地域ボランティア 	<p>課題意識を持って、積極的に地域と関わり、地域への理解を深めることができたと考える生徒の割合が</p> <p>A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p>	<p>84% B</p> <p>(普通科) 88%</p> <p>(総合学科) 70%</p>	<p>成果：地域調べ学習や地元企業見学会、インターンシップ、朝市販売実習を通して、生徒の地域理解が深まった。地域調べ学習と成果発表会では、地域活性化に向けて新たな提案をするなど、地域に対する課題意識を深めることができた。</p> <p>課題：地域を盛り上げていくために、さらに意欲的に活動すること。</p> <p>改善策：様々な取組や活動の事後指導を充実させ、地域貢献意識のさらなる向上を図る。</p> <p style="text-align: right;">総務</p>

平成31年度 最終自己評価

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	成果・課題・改善策
<p>4. 多忙化改善を積極的に実現する学校</p> <p>①ワークライフバランスを考えた教員の意識改革を図る。</p> <p>②タイムマネージメントを生徒に意識させるHR指導、部活動指導の確立を図る。</p> <p>③会議の縮減や行事の精選等による業務の効率化を図る。</p>	<p>* 行事の精選・省力化</p> <p>* 会議方法の工夫</p>	<p>昨年度より多忙化改善への意識が高まり、効率よく業務に取り組むことができたと考える教員の割合が</p> <p>A 90%以上</p> <p>B 80%以上</p> <p>C 70%以上</p> <p>D 70%未満</p>	<p>A</p>	<p>成果：「できている」が38%、「ほぼできている」が52%で合わせて90%となり目標は達成できた。</p> <p>課題：「ほぼできている」から、「できている」への割合が増加するようにする。昨年度来の取組で、改善点は多くあったため、高い数値となったが、来年度以降にさらなる多忙化改善を目指す際には、一層の業務内容の見直し、業務の平準化が必要である。</p> <p>改善策：アシスト教員・ユティリティースタッフの活用による、業務の平準化や、安定を求めず若手に任せることでモチベーションも維持したい。 教頭</p>
	<p>* 生徒会、部活動、挨拶運動</p> <p>* HRでの学習指導</p> <p>* 部活動の計画づくり</p>	<p>生徒の不注意による遅刻「0」の日数が年間を通して</p> <p>A 100日以上</p> <p>B 90日以上</p> <p>C 80日以上</p> <p>D 80日未満</p>	<p>未定 D</p>	<p>成果：1月17日時点で達成日数は「53日」で残りすべてが達成されても100日には届かないという現状である。</p> <p>課題：時間の大切さやタイムマネージメントの意識が低い生徒が多い。1人で十数回遅刻する生徒もいるなど改善に時間がかかる。夏休みや冬休みなど長期の休み明けの遅刻が多い。10月以降の3年生の遅刻が多い。</p> <p>改善策：遅刻をしないことの長所や、遅刻をすることの短所などを明示し、意識を高める。保護者とも協力し粘り強く指導して予防する。挨拶運動を実施したりクラス毎で遅刻回数をカウントするなどして抑止する。3年生には特に社会人に必要なことと関連付けて指導する。 生徒指導</p>
	<p>* 定時退校日の設定</p> <p>* 時間外勤務時間調査</p> <p>* 校務分掌の見直し</p>	<p>教員一人あたりの月平均時間外勤務時間が昨年度より</p> <p>A 10%以上減少した</p> <p>B 8%以上減少した</p> <p>C 6%以上減少した</p> <p>D 6%未満の減少であった</p>	<p>B</p>	<p>成果：4月～12月の8か月間の推移では、4月及び8月の休日が多かった月において、部活動指導に要した時間が増加した。それ以外は、各月とも10%前後の減少であり、概ね達成したと言える。</p> <p>課題：部活動指導に要する時間を減少させるためには、より効率的な練習内容の効率化や練習試合などの精選、休みの日の設定などの検討が必要である。</p> <p>改善策：時期に応じた（主要大会前とそれ以外の時期）日課の編成や、生徒完全下校時間の徹底。外部コーチの活用や顧問同士の輪番指導による、負担の軽減。 教頭</p>